

令和6年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔文学部人文学科〕

プログラムの名称（和文）	歴史学プログラム
（英文）	History
1. 取得できる学位 学士（文学）	
<p>2. 概要</p> <p>歴史学プログラムでは、日本、アジア、ヨーロッパそれぞれの歴史的な個性とともに、これらの国・地域を世界的関連性のもとでとらえ、総合的・多面的に歴史の実証的追究ができる人材を育成するための教育をおこないます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本史学分野では、日本古代史、日本中世史、日本近世史、日本近代史についての授業科目が用意され、各時代の研究手法を学ぶことができます。 ・東洋史学分野では、前近代及び近代の中国史、東南アジア史、中央ユーラシア史等についての授業科目が用意され、それぞれの専門的な研究手法を学ぶことができます。 ・西洋史学分野では、古代地中海世界、中世ヨーロッパ史、近代ヨーロッパ史についての授業科目が用意され、各時代・地域の研究手法を学ぶことができます。 	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>文学部は、「主として人文科学の分野における幅広い基礎学力と専門知識を有し、鋭い感性と客観的視点に基づいて現代社会を的確に見据え、その発展に貢献できる人間性豊かな個性的人材を養成すること」を教育の根本理念として掲げています。そして、この理念を具体化するために、「伝統的研究の成果と方法論を継承し、専門領域における基礎的研究を深化すること、新たな研究領域や学際的領域に常に注目し、幅広い研究を積極的に推進すること、現代社会に対する鋭い問題意識を常に持って、研究を活性化すること、外国語の運用能力を高めるとともに、専門領域の必要に即した情報処理能力を身につけること、絶え間ない自己改革を行う謙虚さ・柔軟性を養うこと、人類の歴史を学び、国際平和の精神を重視する姿勢を培うこと」という教育目標を定めています。</p> <p>本プログラムでは、文学部の掲げる教育理念と教育目標に基づき、以下の到達目標を掲げています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本史学、東洋史学、西洋史学、そしてこれらに隣接する学問に対する幅広い基礎的学力と専門知識を修得する。 (2) 日本史学、東洋史学、西洋史学、それぞれの専門分野における研究成果や伝統的な方法論を継承しつつ、自らの問題意識と史料の解釈に基づいた新たな論理を構築する能力を修得する。 (3) 各専門領域における基礎的研究を深化させるとともに、国際的な視野やものの考え方、資料・情報の収集・分析能力、論理的な思考力、創造力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を修得する。 <p>この目標に到達するために編成された本プログラムの教育課程を終えて、学士（文学）を授与されるためには、学生には以下のことが求められます。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生は、所定の期間在学し、プログラムが設定した授業科目を履修して、所定の単位数を修得しなけれ 	

ばならない。

(2) 学生は、原典・資史料の収集、分析、批判的考察を通じて、人間文化に対する深い洞察力を培い、自ら卒業論文を作成して、提出しなければならない。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本プログラムは、文学部の掲げる教育理念・教育目標及びプログラムの掲げる到達目標を実現するために、次の教育課程（カリキュラム）を編成・実施しています。

(1) 学生は、専門研究の基礎となる幅広い教養、外国語の運用能力、情報処理能力、平和を筆頭とする人類の課題を学際的にとらえる広い視野を修得するために、所定の教養教育科目を履修する。

(2) 学生は、2年次に教育プログラム・専門分野に配属され、日本史学、東洋史学、西洋史学、それぞれの専門分野に関する基礎的知識と理解を修得するために、専門科目としての専門講義、専門実習、専門演習を履修する。

(3) 学生は、3年次に原典読解力、資料調査能力、研究方法、論理的分析力を修得するために、少人数による参加型の専門演習科目（基礎演習・発展演習など）を履修する。

(4) 学生は、4年次に教員の指導の下に、独創的・複眼的な考察力と表現力を磨いて、自ら卒業論文のテーマを設定し、学士課程における勉学の集大成として卒業論文を作成する。

5. 開始時期・受入条件

開始時期：2年次から

受入条件：学生の志望を尊重しつつ、入学後の履修状況を参考に、第1年次末に次の方法で審査決定します。ただし、光り輝き入試総合型選抜Ⅱ型により入学した学生は、受験したプログラムへ配属されません。

(1) 志望届の提出

1年次の1月末までに教育プログラム・専門分野志望届と志望理由書を提出します。

(2) 受入審査の方法は原則として次によります。

- ・志望者が受入目安数内の場合：学生の志望どおり受け入れます。
- ・志望者が受入目安数を超えた場合：学業成績上位者から受入目安数までを受け入れます。

受け入れられなかった学生は下位の志望先にて、受入目安数の範囲内で受け入れます。ただし、上位で志望した者が優先されます。

6. 取得可能な資格

- ・中学校教員一種免許状（国語、社会、英語、ドイツ語、フランス語）
- ・高等学校教員一種免許状（国語、地理歴史、公民、英語、ドイツ語、フランス語）
- ・学芸員となる資格

7. 授業科目及び授業内容

※ 授業科目は、別紙1の履修表を参照。

※ 授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示します。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4、A=3、B=2、C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示します。

成績評価	数値変換
S (秀 : 90点以上)	4
A (優 : 80~89点)	3
B (良 : 70~79点)	2
C (可 : 60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀 (Excellent)	3.00~4.00
優秀 (Very Good)	2.00~2.99
良好 (Good)	1.00~1.99

本プログラムにおける学習成果の評価法についての詳細は、

※ 別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照。

※ 別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照。

※ 別紙4のカリキュラムマップを参照。

9. 卒業論文 (卒業研究) (位置づけ, 配属時期と方法)

○ 位置付け

卒業論文は、本プログラムの到達点と位置付け、卒業論文指導4単位、卒業論文8単位を必修とします。本プログラムでの学習成果を集大成し、自己の学習の到達水準を見極め、卒業後の更なる発展を促すことを目的とします。

○ 配属時期と作成方法

4年次前期に、各自が設定した研究テーマに基づいて卒業論文指導教員を定め、当該教員の指導を受けて10月末に題目を、1月末に論文を提出します。

10. 責任体制

PDC A責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action))

本プログラムの計画・実施・評価検討・対処は、歴史学プログラム教員会が責任を持って行います。プログラム外からの評価検討・対処は、全学の教育質保証委員会が行います。

別表（細則第4条第3項関係）

文学部教育課程

卒業要件単位数 124単位（教養教育科目40単位，専門教育科目84単位）

教養教育科目

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目	単位数	履修指定	標準履修 (注1)					
							1年次					
							1セメ	2セメ	1T	2T	3T	4T
教養教育	平和科目		2		2	選択必修		○				
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○					
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○					
		展開ゼミ	(0)	(注3)	1	自由選択		○	○	○	○	
	共通科目	領域科目		20	(注2) (注5) (注8)	2	選択必修	○	○	○	○	
		外国語科目 (注4)	英語	コミュニケーション I	コミュニケーション I A	1	選択必修	○	○			
				コミュニケーション I B	1	○		○				
			コミュニケーション II	コミュニケーション II A	1				○	○		
				コミュニケーション II B	1					○	○	
			上記4科目のうちから2科目以上									
		初修外国語	ドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，韓国語，アラビア語のうちから1言語選択	ベーシック外国語 I	1	必修	○	○	○	○		
				ベーシック外国語 II	1		○	○	○	○		
				ベーシック外国語 III	1		○	○	○	○		
				ベーシック外国語 IV	1		○	○	○	○		
		英語または初修外国語 (注6)		コミュニケーション基礎 I	1	選択必修	○	○				
				コミュニケーション基礎 II	1				○	○		
インテンシブ外国語 I	1			選択必修	○	○						
インテンシブ外国語 II	1						○	○				
情報・データサイエンス科目		情報・データ科学入門 (注7) (注8)	2	必修		○						
		(注7)	2	選択必修			○	○				
健康スポーツ科目		(0)	(注3) (注8)	1又は2	自由選択	○	○	○	○			
社会連携科目		(0)	(注3) (注5)	1又は2	自由選択	○	○	○	○			
基盤科目		(0)	(注3)	1～3	自由選択	○	○	○	○			
計			40									

注1： ○印は標準履修時期を表している。なお，当該ターム（またはセメスター）で単位を修得できなかった場合は，これ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するターム（またはセメスター）が異なる場合があるので，毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。なお，表中ではタームは「T」と表記する。

注2： 自然科学系科目群から2科目4単位以上及び人文社会科学系科目群から2科目4単位以上を選択履修すること。

注3： 展開ゼミ，健康スポーツ科目，社会連携科目または基盤科目を履修した場合は，領域科目を履修したものとみなす。

注4： 英語・初修外国語の履修については，外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細は，教養「外国語科目」に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注5： 要修得単位数を超えて修得した領域科目及び社会連携科目のうち，使用言語が「英語」の授業科目の単位は，英語の単位とすることができる。

注6： コミュニケーション基礎 I，II またはインテンシブ外国語 I，II のどちらか2単位を修得すること。英語以外の外国語をさらに深く学びたい学生は，インテンシブ外国語 I，II を履修するのが望ましい。超過分の単位は，2単位まで領域科目の単位とすることができる。

注7： 情報・データサイエンス科目の履修については，2ターム開講の「情報・データ科学入門」を必ず修得し，「コンピュータ・プログラミング，知能とコンピュータ，データサイエンス基礎，ゼロからはじめるプログラミング，教育のためのデータサイエンス」の中から2単位を修得すること。超過分の単位は，2単位まで領域科目の単位とすることができる。

注8： 教育職員免許状を取得する場合は，領域科目「日本国憲法」2単位，情報データ・サイエンス科目「情報・データ科学入門」2単位及び健康スポーツ科目2単位を修得すること。詳細は，専門「教育職員免許状の取得について」を参照すること。

専門教育科目

歴史学プログラム

区分	授業科目	開設期	単位	履修区分	備 考
専門基礎科目 26単位	入門科目 (各分野の入門科目の中から)	1・2	6	選択必修	超過分の単位は、2単位まで自由選択科目の単位とすることができる。
	英語A, B	3・4	2	必修	文学部提供教育プログラム 共通科目群のもの。
	人文学概説	3-8	6	選択必修	
	地理学・考古学・文化財学プログラムの概説・研究法の科目				
自由選択科目	1-8	12	選択必修	文学部・他学部の専門教育科目及びセンター等開設科目から選択すること。	
専門科目 46単位	専門講義 [日本史学分野] [東洋史学分野] [西洋史学分野] の概説・研究法の科目	3-6	46	選択必修	各人の志望する分野の専門科目を26単位以上履修すること。
	専門実習・専門演習 [日本史学分野] の実習, 基礎演習, 発展演習の科目 [東洋史学分野] [西洋史学分野] の基礎演習, 発展演習の科目	3-8			
卒業論文科目 12単位	卒業論文指導A, B	7・8	4	必修	
	卒業論文	8	8	必修	
合計			84		

専門教育科目一覧

歴史学プログラム

分野	区分		科目コード	授業科目	学期単位	開設単位	配当年次	授業形態	免許教科 ○包括の科目			
日本史学	専門基礎科目	入門科目	BE0010	日本史学入門	2	2	1	講義				
	専門科目	専門講義		BE2000	日本古代研究A	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BE2010	日本古代研究B	2	2	3	講義	社会・地歴		
				BE2040	日本中世研究A	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BE2050	日本中世研究B	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BE2060	日本中世研究C	2	2	3	講義	社会・地歴		
				BE2070	日本中世研究D	2	2	3	講義	社会・地歴		
				BE2080	日本近世研究A	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BE2090	日本近世研究B	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BE2100	日本近世研究C	2	2	3	講義	社会・地歴		
				BE2110	日本近世研究D	2	2	3	講義	社会・地歴		
				BE2120	日本近代研究A	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BE2130	日本近代研究B	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BE2140	日本近代研究C	2	2	3	講義	社会・地歴		
				BE2150	日本近代研究D	2	2	3	講義	社会・地歴		
				BE2160	日本文化システム史論A	2	2	2	講義	○社会・地歴		
				BE2170	日本文化システム史論B	2	2	3	講義	○社会・地歴		
				BE2180	日本社会システム史論A	2	2	2	講義	○社会・地歴		
		BE2190	日本社会システム史論B	2	2	3	講義	○社会・地歴				
		専門実習・専門演習	実習	BE3000	日本史実習A	1	1	2	実習			
				BE3010	日本史実習B	1	1	3	実習			
			基礎演習	BE4000	古記録古典籍演習A	2	2	2	演習			
				BE4010	地域文化財演習A	2	2	3	演習			
	BE4020			文字資料解析学A	2	2	2	演習				
	発展演習		BE4030	地域史特別演習A	2	2	3	演習				
			BE5000	古記録古典籍演習B	2	2	2	演習				
		BE5010	地域文化財演習B	2	2	3	演習					
		BE5020	文字資料解析学B	2	2	2	演習					
		BE5030	地域史特別演習B	2	2	3	演習					
東洋史学	専門基礎科目	入門科目	BF0010	東洋史学入門	2	2	1	講義				
	専門科目	専門講義		BF2000	東アジア地域システム研究A	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BF2010	東アジア地域システム研究B	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BF2040	アジア海域システム研究A(東洋史)	2	2	2	講義	○社会・地歴		
				BF2050	アジア海域システム研究B(東洋史)	2	2	2	講義	○社会・地歴		
				BF2060	東南アジア地域システム研究A	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BF2070	東南アジア地域システム研究B	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BF2080	中国経済史研究A	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BF2090	中国経済史研究B	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BF2100	中国社会史研究A	2	2	2	講義			
				BF2110	中国社会史研究B	2	2	2	講義			
				BF2120	中国政治史研究A	2	2	2	講義	社会・公民		
				BF2130	中国政治史研究B	2	2	2	講義	社会・公民		
				BF2140	アジア社会史研究A	2	2	2	講義	社会・地歴		
				BF2150	アジア社会史研究B	2	2	2	講義	社会・地歴		
				専門演習	基礎演習	BF4000	中国新聞情報解析学A	2	2	2	演習	
						BF4010	中国新聞情報解析学B	2	2	2	演習	
						BF4021	中国経済史史料解析学A	2	2	2	演習	
		BF4031	中国経済史史料解析学B			2	2	2	演習			
		BF4040	中国社会史文書解析学A			2	2	2	演習			
		BF4050	中国社会史文書解析学B			2	2	2	演習			
		BF4060	中国政治史文書解析学A			2	2	2	演習			
		BF4070	中国政治史文書解析学B			2	2	2	演習			
	BF4080	アジア文化史文書解析学A	2			2	2	演習				
	BF4090	アジア文化史文書解析学B	2			2	2	演習				
	BF4100	アジア社会史文書解析学A	2	2	2	演習						

専門教育科目一覧

歴史学プログラム

分野	区分		科目コード	授業科目	学期単位	開設単位	配当年次	授業形態	免許教科 ○包括的科目	
東洋史学	専門科目	専門演習	基礎演習	BF4110	アジア社会史文書解析学B	2	2	2	演習	
			発展演習	BF5000	中国新聞情報解析学C	2	2	3	演習	
				BF5010	中国新聞情報解析学D	2	2	3	演習	
				BF5021	中国経済史史料解析学C	2	2	3	演習	
				BF5031	中国経済史史料解析学D	2	2	3	演習	
				BF5040	中国社会史文書解析学C	2	2	3	演習	
				BF5050	中国社会史文書解析学D	2	2	3	演習	
				BF5060	中国政治史文書解析学C	2	2	3	演習	
				BF5070	中国政治史文書解析学D	2	2	3	演習	
				BF5080	アジア文化史文書解析学C	2	2	3	演習	
				BF5090	アジア文化史文書解析学D	2	2	3	演習	
				BF5100	アジア社会史文書解析学C	2	2	3	演習	
BF5110	アジア社会史文書解析学D	2	2	3	演習					
西洋史学	専門基礎科目		入門科目	BG0010	西洋史学入門	2	2	1	講義	
	専門講義	概説・研究法	BG2000	世界システム論研究	2	2	2	講義		
			BG2010	大西洋地域システム研究	2	2	2	講義	社会・地歴	
			BG2020	地中海地域システム研究	2	2	2	講義	社会・地歴	
			BG2031	ヨーロッパ海域システム研究	2	2	2	講義	社会・地歴	
			BG2050	ヨーロッパ政治社会史研究	2	2	2	講義	社会・公民	
			BG2051	ヨーロッパ政治文化史研究	2	2	2	講義		
			BG2060	ヨーロッパ社会経済史研究	2	2	2	講義		
			BG2070	地中海文化論研究	2	2	2	講義	社会・地歴	
			BG2071	地中海社会史研究	2	2	2	講義	社会・地歴	
			BG2072	地中海交流史研究	2	2	2	講義	社会・地歴	
			BG2081	異文化交流史研究（西洋史）	2	2	2	講義	○社会・地歴	
	専門科目	基礎演習	BG4000	ヨーロッパ社会経済史文書解析学A	2	2	2	演習		
			BG4011	ヨーロッパ文化史演習A	2	2	2	演習		
			BG4020	地中海文書・碑文解析学A	2	2	2	演習		
			BG4031	都市史料論演習A	2	2	2	演習		
			BG4041	ヨーロッパ社会史演習A	2	2	2	演習		
			BG4050	ヨーロッパ政治文化論史料演習A	2	2	2	演習		
		発展演習	BG5000	ヨーロッパ社会経済史文書解析学B	2	2	3	演習		
			BG5011	ヨーロッパ文化史演習B	2	2	3	演習		
			BG5020	地中海文書・碑文解析学B	2	2	3	演習		
			BG5031	都市史料論演習B	2	2	3	演習		
			BG5041	ヨーロッパ社会史演習B	2	2	3	演習		
BG5050			ヨーロッパ政治文化論史料演習B	2	2	3	演習			
BG6000	ヨーロッパ史総合演習A		2	2	2	演習				
BG6010	ヨーロッパ史総合演習B	2	2	2	演習					
BG6020	ヨーロッパ史総合演習C	2	2	3	演習					
BG6030	ヨーロッパ史総合演習D	2	2	3	演習					
共通	卒業論文科目		BX2100	卒業論文指導A	2	2	4	演習		
	BX2200	卒業論文指導B	2	2	4	演習				
	BX2500	卒業論文	8	8	4	演習				

歴史学プログラムにおける学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 課題を学際的・総合的にとらえる広い視野の習得	諸課題をいろいろな視点から考え的確に理解することができる。	諸課題をいろいろな視点から考え理解することができる。	諸課題をいろいろな視点から考えることができる。
	(2) 日本、東洋または西洋の歴史に関する基本的理解	歴史に関する知識を習得しており、自己の研究分野において活用することができる。	歴史に関する知識を習得しており、より発展的な理解ができる。	歴史に関する基礎的知識を習得しており、その概要を話すことができる。
能力・技能	(1) 知的活動の基本となるスキルの習得	専門的な知識を習得するための基本的スキルを十分に活用することができる。	専門的な知識を習得するための基本的スキルを応用することができる。	専門的な知識を習得するための基本的スキルを使うことができる。
	(2) 歴史学に関する研究の方法の習得	歴史学に関する研究の方法を十分に理解し、自己の研究に活用することができる。	歴史学に関する研究の方法を理解し、自己の研究に活用することができる。	歴史学に関する研究の方法をある程度理解し、自己の研究に一部活用することができる。
	(3) 歴史学に関する原典史料の読解力の習得	辞書・索引などの基本的文献を活用ことができ、原典史料を独力で読解することができる。	辞書・索引などの基本的文献を活用ことができ、原典史料をある程度読解することができる。	辞書・索引などの基本的文献を活用することができる。
総合的な力	(1) 証拠資料やデータを収集・整理し分析する能力の習得	証拠資料やデータを収集・整理し分析する非常に優れた能力を習得し、それを十分に活用できる。	証拠資料やデータを収集・整理し分析する優れた能力を習得し、応用することができる。	証拠資料やデータを収集・整理し分析する能力を習得し、ある程度活用することができる。
	(2) 論理的思考力を身につけて、諸問題について検討し解決する能力の習得	論理的思考力を身につけて、諸問題について検討し解決する非常に優れた能力を習得し、十分に活用できる。	論理的思考力を身につけて、諸問題について検討し解決する優れた能力を習得し、応用することができる。	論理的思考力を身につけて、諸問題について検討し解決する能力を習得し、ある程度活用することができる。
	(3) 構造的で独創性に富んだ見解を導出し、口頭・文章で論理的に表現する能力の習得	構造的で独創性に富んだ見解を高い次元で導くことができ、それを口頭・文章で論理的に表現する非常に優れた能力も習得し、それを十分に活用できる。	構造的で独創性に富んだ見解を導くことができ、それを口頭・文章で論理的に表現する優れた能力も習得し、応用することができる。	構造的で独創性ある見解を導くことができ、それを口頭・文章で論理的に表現することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門領域における研究を行ううえで必要な基礎学力を身につけるとともに、自然科学を含むさまざまな分野の研究の方法・成果・課題を幅広く学習して、専門研究に活用できる独創的視点を養う。なお、東洋史学分野や西洋史学分野を志望する者は、史料の読み込み等に必要外国語能力を習得する。

歴史学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(1) 知識・理解 課題を学際的・総合的にとらえる広い視野の習得	(1T) 教養ゼミ (◎)							
	(2T) 展開ゼミ (△)							
	(1T) 大学教育入門 (◎)							
	(2T) 平和科目 (○)							
領域科目 (○)								
(2) 日本、東洋または西洋の歴史に関する基本的理解	(2T) 西洋史学入門 (○)	(3T) 日本史学入門 (○)						
		(4T) 東洋史学入門 (○)						
(1) 知的活動の基本となるスキルの習得	コミュニケーション I (◎)	コミュニケーション II (◎)						
	ベーシック外国語 (○)							
	コミュニケーション基礎 I (○)	コミュニケーション基礎 II (○)						
	インテンシブ外国語 (○)							
	(2T) 情報・データ科学入門 (◎)	情報・データサイエンス科目 (○)						
(2) 歴史学に関する研究の方法の習得			日本古代研究A (○)	日本文化システム史論A (○)	(1T) 日本古代研究B (○)			
			(1T) 日本中世研究A (○)	(3T) 日本社会システム史論A (○)	(1T) 日本中世研究C (○)			
			(1T) 日本近世研究A (○)	東アジア地域システム研究B (○)	(1T) 日本近世研究C (○)			
			(2T) 日本近代研究A (○)	(3T) 東南アジア地域システム研究B (○)	(2T) 日本近代研究C (○)			
			日本史実習A (○)	(3T) 中国経済史研究B (○)	日本史実習B (○)			
			東アジア地域システム研究A (○)	(4T) 中国社会史研究B (○)				
			アジア海域システム研究A(東洋史)	中国政治史研究B (○)				
			アジア海域システム研究B(東洋史)	アジア社会史研究B (○)				
			(2T) 東南アジア地域システム研究A (○)	世界システム論研究 (○)				
			(1T) 中国経済史研究A (○)	大西洋地域システム研究 (○)				
			(1T) 中国社会史研究A (○)	(3T) ヨーロッパ海域システム研究 (○)				
			中国政治史研究A (○)	(4T) ヨーロッパ政治文化史研究 (○)				
			アジア社会史研究A (○)	ヨーロッパ社会経済史研究 (○)				
			(1T) 地中海地域システム研究 (○)	地中海文化論研究 (○)				
			ヨーロッパ政治社会史研究 (○)	(3T) 地中海交流史研究 (○)				
			(1T) 地中海社会史研究 (○)					
(3) 歴史学に関する原典史料の読解力の習得			文字資料解析学A (○)	古記録古典籍演習A (○)	地域文化財演習A (○)			
			中国新聞情報解析学A (○)	中国新聞情報解析学B (○)	地域史特別演習A (○)			
			中国経済史史料解析学A (○)	中国経済史史料解析学B (○)				
			中国社会史文書解析学A (○)	中国社会史文書解析学B (○)				
			中国政治史文書解析学A (○)	中国政治史文書解析学B (○)				
			アジア文化史文書解析学A (○)	アジア文化史文書解析学B (○)				
			アジア社会史文書解析学A (○)	アジア社会史文書解析学B (○)				
			(1T) ヨーロッパ社会経済史文書解析学A (○)	ヨーロッパ社会史演習A (○)				
			ヨーロッパ文化史演習A (○)	(3T) ヨーロッパ政治文化論史料演習A (○)				
			(2T) 地中海文書・碑文解析学A (○)					
			(2T) 都市史料論演習A (○)					

歴史学プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(1) 証拠資料やデータを収集・整理し分析する能力の習得				古記録古典籍演習B (○)	中国新聞情報解析学C (○)	地域文化財演習B (○)		
				文字資料解析学B (○)	中国経済史史料解析学C (○)	地域史特別演習B (○)		
					中国社会科学史文書解析学C (○)	ヨーロッパ文化史演習B (○)		
					中国政治史文書解析学C (○)	都市史料論演習B (○)		
					アジア文化史文書解析学C (○)	ヨーロッパ社会史演習B (○)		
					アジア社会史文書解析学C (○)			
					(2T) ヨーロッパ社会経済史文書解析学B (○)			
					地中海文書・碑文解析学B (○)			
(2) 論理的思考力を身につけて、諸問題について検討し解決する能力の習得			ヨーロッパ史総合演習A (○)	日本中世研究B (○)	ヨーロッパ史総合演習C (○)	日本中世研究D (○)		
				(3T) 日本近世研究B (○)		(3T) 日本近世研究D (○)		
				(2T) 日本近代研究B (○)		(3T) 日本近代研究D (○)		
				ヨーロッパ史総合演習B (○)		日本文化システム史論B (○)		
						日本社会システム史論B (○)		
						中国新聞情報解析学D (○)		
						中国経済史史料解析学D (○)		
						中国社会科学史文書解析学D (○)		
						中国政治史文書解析学D (○)		
						アジア文化史文書解析学D (○)		
(3) 構造的で独創性に富んだ見解を導出し、口頭・文章で論理的に表現する能力の習得							卒業論文指導A (◎)	卒業論文指導B (◎)
								卒業論文 (◎)

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎) 必修科目 (○) 選択必修科目 (△) 選択科目

※ターム科目の区別は、科目名の前に記載する。
 第1ターム: 1T 第2ターム: 2T 第3ターム: 3T 第4ターム: 4T
 (例) 第1ターム開講の科目 → (1T) コミュニケーションI

歴史学プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線	研究室	メールアドレス
井内太郎	教授	6652	A554	tinai@hiroshima-u.ac.jp
金子肇	教授	6645	A564	kaneko@hiroshima-u.ac.jp
奈良勝司	教授	6642	A562	knara@hiroshima-u.ac.jp
本多博之	教授	6639	A560	honda@hiroshima-u.ac.jp
前野弘志	教授	6650	A552	hmaeno@hiroshima-u.ac.jp
上田新也	准教授	6647	A565	
藤原翔太	准教授	6649	A551	
船田善之	准教授	6644	A563	funada@hiroshima-u.ac.jp
殷暁星	助教	6641	A561	yin@hiroshima-u.ac.jp

※電話082-424-内線番号